別紙

令和3年度　学習分析事業　改善計画　三原市立三原小学校

1．本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均　（全国を50とする）

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	50.6	53.1	51.5	51.3	51.1	51.5
算数	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	52.1	52.7	49.9	53.7	54.2	52.5
理科	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均			52.6	50.9	50.1	51.2
全体	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	51.3	52.9	51.3	52	51.8	51.9

②全国学力・学習状況調査　正答率平均　（第6学年対象）

教科	国語	算数
目標値 （対県比）		
結果 （対県比）	70 （106）	76 （108）

2．調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】（NRTをうけて） ●国語科では，主題や構成を読み取る（40.1％），考えや感想をもって伝え合う（44.6％），詳細を読み取って解釈する（38.0％）に課題があった。 ●算数科では，絵や図を用いた数量の表現（60.5％），長さ・重さ（50.5％），時刻と時間（56.2％），表と棒グラフ（44.0％）に課題があった。 ●理科では，植物の発芽・成長・結実（36.0％）やその観察（26.0％）に課題があった。	【年度当初の学力について】（全国学力・学習状況調査をうけて） ●国語科では，文章や図表の内容をまとめる問題2三（37.5）や条件に応じて文章の内容を要約する問題2四（30.6）に課題が見られた。中心となる語や文を見つけたり，問題の条件にある事柄を落とさずに解答を考えたりする力に課題があると考えられる。 ●算数科では，速さを求める式と商の意味を答える問題1（3）（54.9）と，ある図形を複数組み合わせた面積の求め方を説明する問題2（3）（60.6）に課題が見られた。数学的表現の置換や往来によって式や数の意味を理解する力や求め方に必要な数学的情報や式を説明する力に課題があると考えられる。

3．課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標　（何を，どの程度達成するか）	達成のための具体的取組　（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 A 全教諭が広い発問・つなぎ発言・自力解決を意識した授業改善により授業力を向上させる。 B 全教諭が児童に基礎的・基本的な学力を習得させる。（全学級単元末テストの平均70点以上） C 全教諭が児童の学習意欲・期待感を向上させる。（学習に対する肯定的評価80％以上）	A①広い発問・つなぎ発言・自力解決を意識した教材研究に取り組む。（情報を関連付けて思考させる） A②授業観察シートを用いて，各学期に1回以上の相互授業参観を実施し，確認し合う。 B③NRT・全国学テの問題を解き，誤答分析をする。 B④課題があった内容を中心に，帯タイムで要約やNRT類似問題プリントに繰り返し取り組ませる。（経験させる，繰り返して定着させる，制限時間を意識させる） C⑤教職員によるノート交流研修や児童によるノート展覧会を実施する。	①6月～3月 ②5月，10月，2月 ③7月～8月，9月，10月 ④10月～3月 ⑤6月，10月，2月	A　単元末の振り返りシートで，学習に対する肯定的記述がある児童80％以上（各学級） B　単元末テストの平均70点以上の児童を80％以上（各学級） B　NRT類似問題プリントで正答率80点以上の児童を80％以上（各学級） C　QUにおける学習意欲得点が全国平均以上（各学級）
【学級・学習集団づくり】 〇学級におけるルールを明確にし，学校生活環境を整える。 〇児童一人ひとりの役割を明確にし，居場所を実感できるようにする。 〇児童の交友関係を広げ，自他のよさ・魅力を認め合えるようにする。	①担任等による児童面談を実施する。 ②係活動を明確化し，定期的に振り返る機会を設定する。 ③児童会活動における自治活動を積極的に採用する。 ④学年全体での学習や活動を設定し，学級を超えたグループを作る。	①いじめアンケートと同時期 ②7月，12月，3月 ③月1回の委員会活動 ④随時（感染予防対策のため実施困難）	・QUの1回目と2回目の結果比較（満足群の増加，不満足群・要支援群の減少） ・QUにおける三次支援の児童数の減少